令和6年度第1回行財政評価委員会・会議録

日時 令和6年10月31日（木）10時00分～12時00分
場所 市役所3階 301会議室
出席者 河内長野市行財政評価委員会 5名
事務局 早川総合政策部長、今矢政策企画課長、及び政策企画課職員
事業担当部（課） 環境経済部（環境政策課、環境衛生課、産業観光課）
都市づくり部（都市計画課）
傍聴者 なし

案件1. 第5次総合計画の各施策に対する外部評価について

○施策 No. 23 快適な生活環境の確保

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

副委員長：この施策に関しては、行政による規制や指導だけではなく、生活環境の保全に対する市民意識の向上が大切。市民意識が向上しているかどうかは、どのように判断すれば良いか。合併浄化槽の補助件数などから類推できるのかと思うが。

担当課：市民意識の向上については、参考指標の「騒音・悪臭などの少なさ」に関する市民満足度から汲み取れると考える。また、合併浄化槽設置費用補助は平成5年度から実施しており、累計654基の補助実績があるが、積極的に浄化槽の入れ替えをさせていただいていることになり、委員ご指摘のとおり、市民意識が現れているかと思う。

副委員長：市民意識の向上を図るため、現在設定している市民満足度ではなく、違う指標の設定の仕方を考えるべき。

委員：市の評価に異論はないが、指標と施策が直結していないと感じる。市民の生活と密接に結びついているし尿処理など、音や臭い以外の設定指標もあると良い。

委員：たとえば、河内長野市は水質が良いという話もあるので、その安心感を市民に浸透させていくよう、分かりやすく市民に伝えてほしい。

委員長：それはもっと別に適した指標があるとか、指標の表現の仕方を変えて分かりやすくした方が良いということか。

委員：河内長野市全体ではなく、地域ごとの状況があると思う。この地域はいままで騒音が多かったが、それが良くなったとか。不法投棄の場所なども、どの地域かなどを具体的に出せば、よりよく分かるかと思う。

委員：河内長野市は下水がしっかり広がったので、浄化槽を使わないといけない地域も少なくなったかと思う。騒音に関しても、静かな街で感謝している。不法投棄についても、不法投

棄禁止の看板をよく見るので、対策が行き届いていると思う。

委員長：各委員からの意見は、施策に致命的な欠陥がある等の厳しい指摘はなかったと思う。むしろ評価はされていると思うが、指標の作り方というか、表現が悪いかもしれない。指標の表現の仕方はもう少し分かりやすくできないかという意見と、補助指標も加えるべきという意見があったと思う。斎場の観点からも、斎場についての補助指標を加えた方が良いのではと思う。住民の皆さんに、斎場をきちんと運営していること、これがすごく大事なサービスだということを分かってもらうため、斎場に関する指標は加えた方が良くと思う。斎場サービスに関する指標については、利用者からアンケートを取り、満足度に加えたら良いと思う。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

○施策 No. 29 公共交通の充実

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

副委員長：少子高齢化、人口減少、運転免許証の返納等の影響もあり、運転手の不足が深刻となっている中、公共交通網の維持は重要。高齢者の通院や高校生の通学など、教育や福祉の分野にも重要な上、観光分野やまちづくり、経済振興にも関わる。河内長野市は非常にたくさんの取組を、予算をしっかりとかけて、取り組んでいると認識しており、敬意を表したい。また、「クルクル」など、社会実証実験にも非常に果敢にチャレンジしている。総合評価はCだが、Bに近いCだと思う。

委員：よく頑張られていると思う。この指標設定だと総合評価はCとせざるを得ないというところで、指標の設定は難しいと感じていた。どれだけこの施策にお金をかけるかというのは、観光や地域振興との連携などもう一つ高い次元で、バランスが良いか悪いかを判断する必要があると思っている。

委員：河内長野は面積が広く、駅から遠方にも（住居が）散らばっている。そういうところに対し、色々な手当をしているということで、すごいと実感している。高齢者に対するバス券やタクシー券の配布なども、他市では聞かない。一方で、バス券やタクシー券は、使い切った人は使い切ると思うが、要らないという人の声もあるのではという気がする。総合評価Cについては、市民の気持ちとしたら、恐らくもう少しは良い評価なのではないか。

委員：公共交通網を維持いただいていることに、まずは感謝する。バス券については、割引券ぐらいではなかなか利用しないのではないかと。そこは思い切って無料券にするべきではない

か。免許がある人が免許返納すると生活が大きく変わるので、その方々の意識が変わり、バスが定着すれば、お金を払ってバスに乗る方が増えるのではないかと思います。

委員 長：総じて各委員から良い評価をいただいた。指標の設定により、悪い総合評価となっていることを同情するような意見かと思う。指標については、関連指標に工夫を加えるのはどうか。例えば、自家用有償旅客運送による事業展開がされている地区の数などを、指標にしても良いのではないか。この委員会を出ているような意見を基にした関連指標の開発を。現在の住みよさ指標はバスの年間利用者数であるが、運転手不足で金剛バスの廃止などもある社会状況の中、ここの数値を上げるのは現実的に難しい。担当課が努力している政策方向をちゃんと反映するような指標を設定したらどうか。

事務局：現行の総合計画上のルールは、このような評価方法になっているが、現在令和8年度からの新総合計画を策定途中であるので、次の指標設定等へのご意見は承った。

委員 長：委員会からの提案として聞いていただきたいが、住民による自家用有償旅客運送の活動など、住民自身による取組も沢山ある。大きな資本や法律の裏付けなどが必要なものは行政がやらないといけないが、そうでないものは住民自身によって支えていかないとけない。総合計画では行政がやるべきこと、住民自治でやるべきことの二つの柱で構成してはどうか。奈良県生駒市などが二つに分けている。

事務局：委員長がおっしゃったことも含め、議論されている途中であるので、検討していきたい。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

○施策 No. 31 商工業の振興

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

副委員 長：事業者数の推移をみると、令和4年から5年で急に400増えているが、これはなぜか。また、小売店舗年間商品販売額の統計は無くなったということだが、代替的に取れる指標の検討はないのか。3点目として、いわゆる漏れバケツ理論への対応は。大型の店舗があって賑わいがあっても、その利益が地元に残らず、漏れていくようなことが起こる。

担当 課：事業者数が大幅に増加している理由は、参照している調査におけるカウント方法が変更になったと聞き及んでいる。実態としては、ほぼ横ばい程度がベースではないかと考えている。2点目の販売額の指標については、検討は行ったが、数値の推移をみる関係上、今回の総合計画におけるクールでは一旦代替指標は設けず、次の計画で新たな指標を設けたいと考えている。3点目は委員のおっしゃるとおり、市内の企業・商業に元気になってもらわないといけない。その一つとして、中小企業振興基本条例を定める予定。これは、市内の関係企業、市民、教育機関を含め、あらゆる機関が市内の中小企業をどのように支えるかという観点に立ったもの。また、ワークワクワクの取組に、市民の皆さんが来ていただ

いて、市内企業の良さを感じてもらい、参加後にその企業の商品を買うような行動に繋がるようにも取り組んでいるところ。

委員：BCPについて教えて欲しい。

担当課：震災などによりインフラ機能が遮断されたときに、どのように事業を継続させるか、計画を事前に作っておくのがBCPである。計画策定の支援と、計画を策定済みの事業者の備品支援などが取組。

委員：自治体ができることと事業者そのものが頑張ることの線引きが難しい。設定している指標は事業者が頑張った成果が出ている気もする。市のすべきことと設定指標がリンクすれば良いのと思う。

委員：赤峰産業用地化にかなりの熱が入っているイメージがあるが、河内長野市以外からも企業が入ってくるのかということが気になる。また、工業に限られていると聞いており、商業は駄目なのかとがっかり感もあり、なぜ商業が駄目だったのかを聞きたい。

担当課：赤峰産業用地については、5社立地予定で、各社と協定を結び、協議を進めているところ。コンセプトは、もともとのグラウンドの広さもあり、市外企業も含めカバーするには十分な面積がないため、まずは市内企業、直近で事業拡大する企業で、河内長野市内に産業用地がないから出て行かざるを得ないという企業に、立地いただきたいと考えている。委員ご指摘の市外企業の誘致については、赤峰産業用地以降も小山田西などの大きな区画整理が予定されているため、並行して進めていきたいと考えている。また、募集の段階で業種を絞ったのではないかとこの部分については、募集の段階では広く募っており、応募可能な状況であったと思われる。

委員：市と商工会の連携は他市よりも進んでいると認識している。何かをやるのに大事なことはスピード。企業誘致の話にしても、他所に出ようとしているときに、早く誘致があったから市内に残ったという話を聞いたので、スピードは大事と感じている。また、市からの補助金については、補助金を貰った人だけが得したり、補助金目当てになったりして、結局上手く回っていないことが歯がゆい。大分県が二代目跡継ぎのスタートアップ補助を実施していると聞いた。そのような取組を河内長野市も先行してどんどんやっていただきたいと思う。

副委員長：市民満足度については目標値を達成していないところだが。

事務局：総合計画の後期においては、本市民満足度は参考指標としての位置付けになっており、評価には含まないため、本施策はA評価となっている。

副委員長：承知した。関連指標のうち、金融支援制度利用件数が減少しているほか、経営基盤補助も平成30年度の13件から半減している。A評価には違和感があり、「概ね妥当」と評価させていただきたい。

委員：この指標であればAなので「妥当」と評価するが、市がやることと指標との繋がりにズレ

を感じている。

委員：製造品出荷額の指標について、まさしく事業者が頑張っているか頑張っていないかであり、そのまま市の評価になるのはおかしい。A評価には納得がいかないため、「概ね妥当」と評価する。

委員：市は商工会との連携を積極的に行っているし、今後も何ができるか、商工会と市で一緒に考えていってほしい。評価は「妥当」と考える。

委員長：指標については、今回委員から出た意見を整理して、工夫してほしい。アウトプットの評価はあるが、アウトカムに繋がるものがあまりない。（行政評価における）令和5年度の成果の欄が、すべてアウトプットになっていて、アウトカムになっていない。取組は頑張っていると思うので、評価は「妥当」に丸をするが、この部分は議論いただきたい。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

案件2. その他

事務局：評価いただいた事業は、委員のご意見をもとに、今後の施策の展開、事業の改善に努める。また、評価結果は、事務局で取りまとめて、後日、市ホームページで公表を予定している。その際、評価結果の取りまとめ、公表方法は事務局に一任いただいてよろしいか。

委員長：事務局に一任する。